

3 区の概要・特徴

(1) 校 区

本市の区割の基本単位は小学校の校区となっており、西区は16の小学校区で構成されています。西区を構成する校区は次のとおりです。

	校 区 名
1	古 町 校 区
2	春 日 校 区
3	城 西 校 区
4	花 園 校 区
5	池 田 校 区
6	白 坪 校 区
7	高 橋 校 区
8	池 上 校 区
9	城 山 校 区
10	松 尾 東 校 区
11	松 尾 西 校 区
12	松 尾 北 校 区
13	小 島 校 区
14	中 島 校 区
15	芳 野 校 区
16	河 内 校 区

※校区は学校番号順に記載



(2) 概 況

<地 勢>

西区の中央部から北部にかけて金峰山系の山地があり、南部に平野部が広がっています。平野部には阿蘇山を源とする白川や北区の改寄町付近を源とする坪井川・井芹川が貫流し、日本最大級の干潟を有する有明海に注いでいます。

また、面積は88.8平方キロメートルで、本市の22.8%を占めており、土地の利用としては、田畑や山林が約7割を占め、宅地は2割弱となっています。

<人 口>

西区の人口は、平成24年4月1日現在、93,170人で本市の12.8%を占め、人口は5区の中で最も少ない状況ですが、県内の他都市と比較すると第2位の八代市（13万2千人）と第3位の天草市（8万9千人）の中間に位置しています。近年、一部の校区での人口増加はあるものの、全体として人口の減少が続いています。

また、65歳以上の高齢者が占める割合は、本市の5区の中で最も高く25.3%となっています。

<交 通>

交通は、西区の東側を鹿児島本線及び九州新幹線が縦断し、新幹線駅として熊本駅、在来線駅として熊本駅、上熊本駅、崇城大学前駅が設置されています。

また、区の西端、有明海には熊本港が開港しています。

主要幹線道路は、国道501号、熊本西環状線（建設中）、熊本港線、熊本玉名線、熊本高森線、野口清水線（西回りバイパス）等が通っています。

<産 業>

産業構成は、農水産業等の第一次産業が9.1%、製造業等の第二次産業が15.3%、サービス業等の第三次産業が72.8% となっています。本市の第一次産業の構成比(3.4%)を大きく上回っており、農水産業は西区の重要な産業となっています。



花岡山から見た熊本駅周辺



西区名産のみかん



(3) 西区誕生までの変遷

- 熊本市は、明治22年4月（1889年）の市制施行以来、数次にわたる合併を経て、現在の姿となっています。
- 西区を構成する旧町村の熊本市との合併の経緯は次のとおりです。

大正10年6月（1921年）	池田村、花園村、島崎村、横手村、古町村、春日町
昭和6年6月（1931年）	白坪村
昭和28年7月（1953年）	高橋村、城山村、池上村
昭和30年4月（1955年）	松尾村
昭和32年1月（1957年）	小島町
昭和33年4月（1958年）	中島村
平成3年2月（1991年）	河内町

- 平成24年4月1日熊本市の政令指定都市移行に伴い区制が施行され、西区が発足しました。

(4) 区の特徴

- 恵まれた自然
- 盛んな農水産業
- 息づく歴史や伝統・文化
- 古くからの市街地の形成
- 玄関口である熊本駅・熊本港
- 市民の台所である田崎市場
- しっかりしたコミュニティ
- 少子高齢化・人口減少



白川の上空から金峰山を望んだ景色

西区は、金峰山や有明海など豊かな自然を有し、その恵みにより古くから農水産業が営まれてきました。また、今日まで先祖代々、祭りや神楽などの伝統・文化も受け継がれるなど、地元の結びつきも比較的に強い地域といえます。

上熊本周辺地区では古くから市街地が形成されており、熊本駅周辺では新幹線開業に伴う再開発等が進み、近代的な街並みが形成されつつあります。また、人や物の交流拠点である熊本駅や熊本港、市民の台所である田崎市場も有しています。

一方で、「少子高齢化」や「人口減少」といった課題も抱えています。

このように、西区は、海・山・川などの自然、農業・漁業などの産業、鉄道や港などの交通、新旧の市街地を有するとともに、今日の日本が抱える課題にも直面しており、まさに日本の縮図のようなところといえます。